

メディカルバレー構想第2期実施計画  
実施報告書

三重県健康福祉部

平成23年4月

## みえメディカルバレー構想第2期実施計画の概要

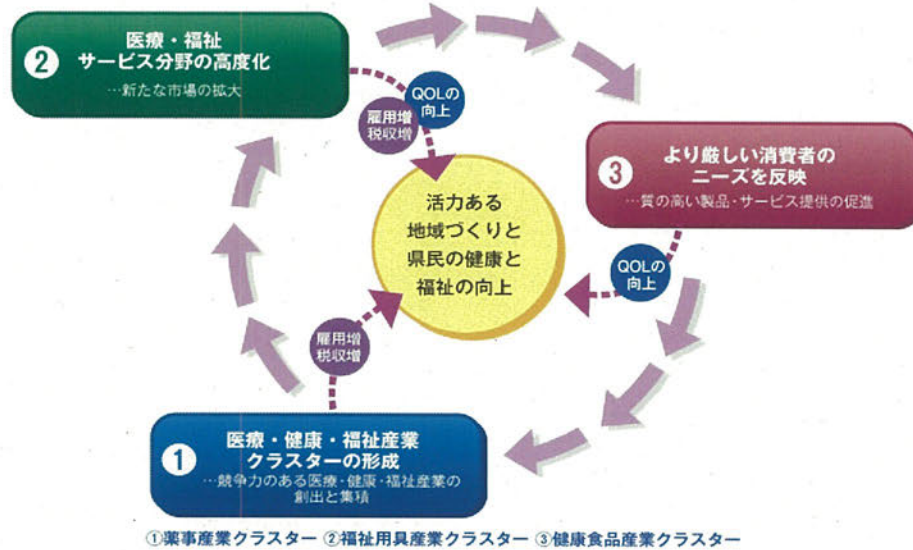
三重県では、次代を担うリーディング産業の創出に向けて医療・健康・福祉分野の産業振興を進め、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざして2002年2月に産学官が協働で、メディカルバレー構想を策定し、同年4月から事業を展開しています。

### メディカルバレー構想の基本理念

地域資源を有効に活用し、利用者と生産者のコラボレーションにより、消費者ニーズに対応した質の高い製品・サービスを供給する、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興（メディカルバレー構想）に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざします。

### I 第1期実施計画の概要（平成14～19年度＝立ち上げ期）

#### (1) 基本理念実現のイメージ



#### (2) 3つの要素と8つの基本方向

##### メディカルバレー構想成功のための3つの要素

###### 1 医療・健康・福祉産業クラスターの形成

医療・健康・福祉に関連する多様な産業クラスターを多数形成していきます。なかでも、薬事産業、健康食品産業、福祉用具産業に関するクラスターの形成に取り組みます。

###### 2 医療・福祉サービスの高度化

福祉分野への民間活力の導入、IT化による情報開示などにより医療・福祉サービスの高度化と効率化に取り組みます。

###### 3 消費者ニーズの反映

県民に対する適切な情報提供、事業者と消費者との交流・連携により、より厳しい消費者としての意識を高めるとともに、ニーズに対応した製品・サービスの供給能力を高めます。

メディカルバレー構想を支える  
環境整備

##### 8つの基本方向

産学官民連携の促進

研究開発・技術開発の促進

創業・新事業創出の支援

企業誘致戦略の推進

医療・健康・福祉サービス分野の高度化と効率化

情報提供の充実

推進体制の整備

人材の確保・育成

### (3) 事業の成果

- ① 産学官民連携の進展
- ② 創業・新事業創出
- ③ 研究開発の進展
- ④ 国等の競争的研究資金の獲得
- ⑤ みえ治験医療ネットワークの構築
- ⑥ 海外との連携の構築
- ⑦ 情報発信ツールの充実
- ⑧ 創造的人材の育成
- ⑨ 新たな知的拠点の整備
- ⑩ バイオクラスターランキングにおける評価

### (4) 関連した取組成果

メディカルバレーの取組をきっかけに県内各地でそれぞれの特色を活かした活動が行われており、成果がでました。

- ① 熊野古道の薬草活用（尾鷲市、紀北町）
- ② 尾鷲海洋深層水の活用（尾鷲市）
- ③ 伊勢鳥羽志摩健康サービス推進協議会の立ち上げ（伊勢市、鳥羽市、志摩市）
- ④ 島人がもてなすウェルネスの旅の企画（鳥羽市）
- ⑤ ハイテク温泉塾の企画（鳥羽市・三重大学教育学部・東京大学の取組）
- ⑥ グルメディカルツアーの企画（志摩市）
- ⑦ 産学官連携伊賀研究拠点（伊賀市、名張市）

### (5) 今後の課題

- ① 県の主導から産学官民で担う体制づくり
- ② 県民の参加促進
- ③ 行政機関等（市町、公設試験研究機関）の参加
- ④ 健康・福祉産業の振興
- ⑤ 情報提供の強化
- ⑥ 県内に人材が定着する仕組みづくり

### (6) 構築された産学官民連携





## Ⅱ 第2期実施計画の策定（平成20～22年度＝成長期 → 「基盤整備期」に変更）

### （1）今後3年間に目指す姿

産学官民が連携しながら、それぞれが自立的な取組を展開するパートナーシップを維持し、そこから次々にイノベーションが生み出され、医療・健康・福祉産業が活性化しています。

### （2）基本方向の設定

これを実現するため、第1期の成果である産学官民連携、人的ネットワークを活用し、新たに次の5つの方向性を基に事業を展開しています。

#### 基本方向1 産学官民連携によるネットワークの充実・拡大

第1期で構築した産学官民連携体制をさらに充実・拡大し、鈴鹿医療科学大学薬学部や三重大学産学官連携伊賀研究拠点を核とした新たな連携に向けた取組の実施、8大学・3高専のそれぞれの強みを生かした取組、市町や地域の関係団体や県民との連携を強化していきます。

#### 基本方向2 メディカル分野の人材の確保・育成

メディカルバレーが発展し、各主体が自立して活動していくためには、高度な知識とモチベーションの高い人材が欠かせません。

フォーラム、研究会、インターンシップ制度、大学における社会人教育プログラムなどを活用し、県内に定着する人材の確保・育成をめざします。

#### 基本方向3 統合医療・予防医学を推進するための体制づくり

伝統薬や本草学者を輩出した歴史的・文化的背景を持っている三重県を統合医療の先進地として確立させるとともに、予防医学を視野に入れた統合医療を活用した産業支援に取り組んでいきます。特に他府県より先駆的に構築した治験医療ネットワークを活用し、エビデンス（科学的根拠）の確立した製品づくりを進め、治験医療ネットワークのビジネスモデル化を確立させ、メディカルバレーの中心的組織に育てます。

#### 基本方向4 技術力向上・製品開発の支援

メディカルバレーの主要パートナーである県内中小企業の技術力、製品開発力を高めるため、産学官連携による支援システムを充実していきます。

また研究資金確保のための企業向け補助金や研究会、セミナー、サポーター等による製造・品質管理の技術支援を実施していきます。

さらに、若手研究者や国等の大型プロジェクトの研究資金の獲得をめざす研究者のために委託研究を提供していきます。

## 基本方向5 推進体制の充実

構想を推進するために設置している推進代表者会議、企画推進会議などの組織の充実・強化を図ります。

内部評価の継続とともに新たな外部評価システムの導入を検討し、事業の PDS サイクルを確立していきます。

### (3) メディカルバレー構想の実施体制

#### みえメディカルバレープロジェクトの推進

(事務局)  
三重県健康福祉部

##### <みえメディカルバレー推進代表者会議>

- ・事業推進の基本方針に関すること
- ・関係機関、組織間の調整および連携に関すること

##### <みえメディカルバレー企画推進会議>

- ・事業の企画に関すること
- ・事業の進捗管理に関すること

##### <事業評価部会>

- ・メディカルバレー推進事業の評価に関すること

##### <共同研究補助等事業部会>

- ・委託研究や共同研究補助の審査・成果確認に関すること

##### <メディカルバレー産学連携市町連絡調整部会>

- ・県内の植物資源、海洋資源等、天然資源を地域の活性化に結びつける方策の検討に関すること

##### <みえ治験医療ネットワーク推進会議>

- ・治験ネットワークの連絡・調整に関すること

##### <みえメディカルバレー国際交流推進連絡会議>

- ・医療・健康・福祉産業の国際交流・連携に関すること

##### <みえメディカル研究会> 会員数約 700 名

- ・産学官民連携の促進
- ・研究開発・技術開発の促進

Ⅲ 第2期実施計画の事業概要（平成20～22年度＝成長期 → 「基盤整備期」に変更）

基本方向1 産学官民連携によるネットワークの充実・拡大

(1)メディカルバレーフォーラムの実施(事業開始 14年度)

【目的】

これまで構築してきた産学官民のネットワークをさらに充実・拡大していくためには、それを支える土台として、産学官民の関係者が顔の見える形で連携を行っていくことが不可欠です。この事業は、それらの関係者が一堂に集まり、今後の当プロジェクトの理解を深める場を提供します。そして、各々の可能性や問題点を持ち寄り、それらを検討し、共通の方向性を導き出すことにより、クラスターとしての発展性や一体性を担保することを目的とします。

【事業の意義・重要性】

この事業を通じて県内にとどまらず、県内外の様々なつながりが形成され、実際の成果として共同研究へとつながったり、外部機関への印象付けにつながったりというように、当プロジェクト内部はもちろんのこと、外部の関係者を巻き込む形で、様々なシナジーを生み出します。そのため、産学官民の関係者が集まるように、興味ある内容で開催し連携を強化していきます。

【目標】

医療・健康・福祉産業における県内・外関係者や一般の方のつながりを深め、このプロジェクトをより広くアピールしていきます。

【結果】

平成20年度

みえメディカルバレーフォーラム 2008	参加者 150名 (平成20年8月8日開催) 於：ホテルグリーンパーク津
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演「人は何故病気になるのか」 東京大学名誉教授 黒木 登志夫 氏</li> <li>・「みえメディカルバレーの取組と成果」「今後みえメディカルバレーが目指す姿」</li> <li>・知事からのメッセージ「美し国・三重の常若」</li> </ul>	

平成21年度

みえメディカルバレーフォーラム 2010	参加者 延 1,500人 (平成22年2月26～27日開催) 於：三重県営サンアリーナ
《主な内容》	
2月26日(金)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーA『健康・医療への新たな挑戦 新しい価値を創るモクモク手づくりファーム』 講師：伊賀の里モクモク手づくりファーム 専務理事 吉田修</li> <li>・鈴鹿医療科学大学・三重大学合同講演会『食と健康をめぐる問題を考えよう』 講師：鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科長 長村洋一 鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療栄養学科 講師 野呂昌子 三重大学医学部 教授 西村訓弘 三重大学医学部附属病院栄養指導管理室長 岩田加壽子</li> </ul>	
2月27日(土)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディカル研究会オープンセミナー</li> <li>・セミナーB『台所はくすり箱』 講師：食養料理研究家 市川加代子、相可高校食物調理科教諭 村林新吾、 (株)マスヤ代表取締役社長 浜田吉司</li> <li>・基調講演会&amp;シンポジウム 基調講演会『食と脳』 講師：脳科学者 茂木健一郎 座長：鈴鹿短期大学長 佐治晴夫 シンポジウム『美し国と食』 モデレーター：佐治晴夫 シンポジスト：茂木健一郎、 NPO法人五十鈴塾塾長 矢野憲一、三重大学大学院医学系研究科教授 西村訓弘</li> </ul>	

平成 22 年度

みえメディカルバレーフォーラム～健康と運動～	参加者 165 名 (平成 22 年 9 月 1 日開催) 於：プラザ洞津
《主な内容》	
・講演Ⅰ『これからの健康産業の可能性』 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 研究開発第 1 部副主任研究員 有元裕美子	
・講演Ⅱ『健康づくりのための運動・身体活動』 独立行政法人国立健康・栄養研究所 運動ガイドラインプロジェクトリーダー 宮地元彦	

**【成果と課題】**

- 医療・健康・福祉産業に関わる県内外の産学官民が一堂に会し、講演などを通じて情報の共有を図るとともに、交流会を通じて人的なネットワークを広げました。
- ▲周知方法、イベントの企画・実行についてアンケート等で指摘されます。メディカルバレープロジェクトが医療・健康・福祉分野と多岐に亘ることから、テーマ・講師の設定や対象者の絞り込みに課題があります。

**(2)みえメディカル研究会の開催(事業開始 14 年度)**

**【目的】**

大学や公設試験研究機関を中心とした産学官民参加型研究会「みえメディカル研究会」を開催し、産学官民連携の促進、研究開発や技術開発の促進をめざします。

**【事業の意義・重要性】**

本事業は、大学等研究者と企業等事業者との出会い、シーズ・ニーズのマッチングの場であり、共同研究を開始する機会を提供しています。過去 6 年間の実施で多くの共同研究を生み出しており、製品開発にも発展しています。

**【目標】**

研究会参加メンバー間でのシーズ・ニーズマッチング、共同研究等の契機となり、研究開発、技術開発を促進します。

**【結果】**

平成 20 年度みえメディカル研究会(会長 三重大学・奥村克純 副学長)

No.	研究会名	研究会主査
1	生物資源有効活用研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 荒木利芳 教授
2	医用工学研究会	三重大学大学院工学研究科 稲葉忠司 准教授
3	福祉用具・ものづくり研究会	三重大学大学院工学研究科 池浦良淳 教授
4	三重ゲノム創薬フォーラム	三重大学大学院医学系研究科 田中利男 教授
5	メディカル創業研究会	三重大学大学院医学系研究科 西村訓弘 教授
6	薬事研究会	三重県医薬品研究センター 池田淳一 センター長
7	電子システム研究会	三重大学大学院工学研究科 鶴岡信治 教授
8	みえ尾鷲海洋深層水利用促進研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 前田広人 教授
9	センシング技術実用化研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 橋本篤 教授
10	健康ツーリズム研究会	三重大学教育学部 富樫健二 准教授
11	統合医療研究会	鈴鹿医療科学大学鍼灸学部 佐々木和郎 教授

平成 21 年度みえメディカル研究会（会長 三重大学・鈴木宏治 副学長）

No.	研究会名	研究会主査
1	生物資源有効活用研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 荒木利芳 教授
2	医用工学研究会	三重大学大学院工学研究科 稲葉忠司 准教授
3	福祉用具・ものづくり研究会	三重大学大学院工学研究科 池浦良淳 教授
4	三重ゲノム創薬フォーラム	三重大学大学院医学系研究科 田中利男 教授
5	薬事研究会	三重県医薬品研究センター 池田淳一 センター長
6	電子システム研究会	三重大学大学院工学研究科 鶴岡信治 教授
7	みえ尾鷲海洋深層水利用促進研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 前田広人 教授
8	センシング技術実用化研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 橋本篤 教授
9	健康ツーリズム研究会	三重大学教育学部 富樫健二 准教授
10	統合医療研究会	鈴鹿医療科学大学鍼灸学部 佐々木和郎 教授
11	環境健康学研究会	三重大学伊賀研究拠点 山本好男 教授

平成 22 年度みえメディカル研究会（会長 三重大学・鈴木宏治 副学長）

No.	研究会名	研究会主査
1	生物資源有効活用研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 梅川逸人 教授
2	医用工学研究会	三重大学大学院工学研究科 稲葉忠司 教授
3	福祉用具・ものづくり研究会	鈴鹿工業高等専門学校 白井達也 准教授
4	薬事研究会	三重県医薬品研究センター 池田淳一 センター長
5	電子システム研究会	三重大学大学院地域イノベーション学研究科 鶴岡信治 教授
6	地域資源活用研究会	三重大学教育学部 乗元秀樹 教授
7	センシング技術実用化研究会	三重大学大学院生物資源学研究科 橋本篤 教授
8	健康増進プログラム研究会	三重大学教育学部 富樫健二 教授
9	環境健康学研究会	三重大学伊賀研究拠点 山本好男 教授
10	腫瘍薬学研究会	鈴鹿医療科学大学薬学部 川西正祐 教授
11	健康食品製造GMP研究会	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部 長村洋一 教授
12	産業看護学研究会	四日市看護医療大学看護学部 後藤由紀 講師

【成果と課題】

○大学・公設試験研究機関を中心とした医療・健康・福祉産業分野での産学官民参加型の研究会として、産学官民が連携することにより新たな研究開発・技術開発が促進されています。会員数延べ 700 名超が活発に活動しています。

▲研究会会員や企業等のニーズに対応した研究会の新設や統廃合を適宜見直す必要があります。

▲PR方法を検討し、新たな会員の参加を促進する必要があります。

▲研究会から生まれた共同研究については、メディカルバレーの共同研究補助や競争的研究資金獲得にむけた活動補助の利用を促し、確実なステップアップに繋げる必要があります。



### (3)メディカルバレー総合情報発信基地の充実(事業開始 14年度)

#### 【目的】

メディカルバレープロジェクトの戦略的な推進に向け、県内外の医療・健康・福祉関連事業者、大学、行政関係者ならびに県民等に、プロジェクトが目指していきたい方向性や実施予定施策などを広く周知し、産学官民が一体となった取り組みを推進するため、様々な方法でプロジェクトに関する情報を収集・整理し、戦略的な発信・活用を行ってまいります。

#### 【事業の意義・重要性】

プロジェクトを発展的な方向で推進していくためには、メディカルバレープロジェクトにコミットする医療・健康・福祉関連事業者、大学、行政関係者及び県民等を増やしていくことが本質的に最も重要なことです。そのためには、充実した不断の情報提供により、様々な関係者に啓発を行っていくことが不可欠なことであります。また、新たな雇用の創出、地域の活性化を目指すため、知的財産活用等による地域産業の活性化を支援するため、本事業の中でより総合的な情報の発信・活用を目指します。

#### 【目標】

メディカルバレープロジェクトに関わる産学官民関係者を増やすことと併せ、既存関係者に対してタイムリーで充実した情報提供を図ることにより、一体となった事業展開を実施していきます。

#### 【結果】(平成20~22年度共通)

- ① メディカルバレー通信の定期的な発行
- ② パンフレットによるPR
- ③ 4つのホームページの充実
  - ・メディカルバレー構想HP <http://www.mvp.pref.mie.jp>
  - ・みえ福祉用具産業支援ネットワーク <http://www.fynet.pref.mie.jp/>
  - ・医薬品安全情報提供システム <http://www.medsafe.pref.mie.jp/>
  - ・薬事工業提供情報システム <http://www.piis.pref.mie.jp/>
- ④ メールマガジンの定期的な発行
- ⑤ 展示会の出展
  - ・「産学官連携推進会議」(国立京都国際会館)
  - ・「国際バイオEXPO」(東京ビックサイト)
  - ・「バイオジャパン」(パシフィコ横浜)
  - ・「JETRO BIOLINK FORUM」(横浜グランドインターコンチネンタルホテル)
  - ・「リーディング産業展みえ」(四日市ドーム)
- ⑥ 三重県農水商工部企業立地室、東京・大阪事務所と協働した医療・健康・福祉分野の企業へのPR・誘致活動の実施
- ⑦ 知的財産活用促進
  - ・ホームページの運用
  - ・メール通信
  - ・相談サポート

#### 【成果と課題】

- 4つのHPそれぞれから随時情報発信を行っており、HPへのアクセス数も年々増加しています。これにより、プロジェクトの知名度が着実に上がっています。
- 広報紙及びHPは定期的な見直しを行うことで対象者・内容ともに充実させています。
- ▲リンクを貼っていただけの関係機関の増加が伸びないため、リンク貼り付け依頼を行い、ネットワークの拡大を進めていく必要があります。
- ▲PR方法を検討し、新たな会員の参加を促進する必要があります。
- ▲さらに人的なネットワークを強化できるように、企画推進会議委員や関係者の協力を得ながら、各大学や企業にあった情報提供方法について工夫する必要があります。

## 基本方向2 メディカル分野の人材の確保・育成

### (4)メディカルバレー創造的人材育成の推進(事業開始 14年度)

#### 【目的】

県内企業、薬局、病院等で必要とする薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する無料職業紹介所で総合的な斡旋を行います。また、県外薬科大学を訪問し、三重県出身学生への情報提供などを進めます。メディカルバレープロジェクトを支える人材を育成するため、教育機関と連携して実践教育の推進に努めます。

#### 【事業の意義・重要性】

県内の医薬分業率の増加、薬事事業者の薬剤師求人などますます薬剤師の需要が増加しており、本事業により薬系人材の確保に貢献する必要があります。また、高度医療や健康関連産業を支える人材を育成するため、人材養成機能の充実を図ります。

#### 【目標】

三重県出身学生あるいは県外出身学生が三重県内の事業所への就職を促すとともに、医療関係者の教育・育成を行うことで高度なメディカル人材を育成し県民の健康に寄与します。

#### 【結果】

県内企業、薬局、病院等の薬系技術者確保のため、県薬剤師会が運営する薬剤師無料職業紹介所で総合的な斡旋を行いました。また、県外薬科大学の訪問や、大学が開催する企業説明会への出展など三重県出身者への情報提供を進めるとともにインターンシップ受け入れを進めてきました。

大学等研究者と共同でかつ高度専門人材育成を中心として研究開発をする事業者に対し、そこでの人材育成に掛かる経費を補助する(共同研究再掲)とともに、大学がメディカル系の企業人を対象に設置している健康・医療・福祉分野の人材育成する大学院カリキュラムへの支援をしています。

#### 平成20年度

- ・ 大学訪問(平成20年6月～平成21年1月 関西6大学、東海・北陸4大学)
- ・ インターンシップの受け入れ(平成20年8月18日～22日 2名 三重県庁)
- ・ 企業説明会に出展(平成21年1月15日 名城大学)

#### 平成21年度

- ・ 大学訪問(平成21年6月～11月 関西6大学、東海・北陸4大学)
- ・ インターンシップの受け入れ(実績なし)
- ・ メディカルバレー創造的人材育成補助事業 2件
- ・ 三重大学大学院医学系研究科バイオメディカル創業プログラム(平成21年度在籍者4名)
- ・ 平成21年4月三重大学地域イノベーション学研究所開講  
(平成21年度入学者 修士課程13名うち社会人1名、博士課程6名うち社会人6名)

#### 平成22年度

- ・ 大学訪問6校(平成22年7月 東海3大学、10月 関西3大学)
- ・ 県職員インターンシップの受け入れ(2大学5名)
- ・ 薬系企業インターンシップ受け入れ(1名)
- ・ メディカルバレー創造的人材育成補助事業 2件
- ・ 平成22年4月三重大学地域イノベーション学研究所入学者  
(修士課程12名うち社会人0名、博士課程6名うち社会人5名)

#### 【成果と課題】

○県と薬剤師会が合同で訪問することを各大学とも高く評価していただいております。また、4年制から6年制に移行したことに伴い、各大学から情報収集することができ有用と考えられます。

さらに今後、県内の生物資源・工学系の学部にも訪問し、積極的な情報提供していく必要があります。

○県庁薬剤師のインターンシップは、近隣で受け入れている行政機関が少なく、大学側もかなり興味を示しています。各大学においてはインターンシップを積極的に取り入れる方針であることも情報を得ており、積極的なインターンシップの受け入れが必要です。

- ▲薬学部の6年制に伴い、インターンシップ事業や就職等の情報が不足し、今後の情報収集を充実する必要があります。
- ▲個人情報保護の関係から、この活動による学生の三重県への就職状況を把握することが困難です。
- ▲将来的に鈴鹿医療科学大学薬学部から卒業生が排出されることから、県内の企業で活躍するメディカル系人材の質の向上を目指した人材育成も必要です。

### 基本方向3 統合医療・予防医学を推進するための体制づくり

#### (5)みえ治験医療ネットワーク構築の推進(事業開始 15年度)

##### 【目的】

H15年度より国による治験活性化計画が推進され、国内の治験届出数が増加傾向に転じる等体制整備が進みつつあります。しかし、国際的なレベルからみると、治験のコスト、スピード、質において未だ解決すべき課題があります。三重県においては、三重大学を中心とした治験ネットワークを他府県に先駆けて構築、推進してまいりましたが、今後は、さらにこのネットワークを着実なものにし、県民に広く啓発していきます。また、このネットワークを通じて、県内研究開発を促進し、よりエビデンスの高い医療の提供や製品づくりを推進します。

##### 【事業の意義・重要性】

医療関連産業の振興とともに、高度先端医療や良質な医療の提供を通じて、県民の健康福祉を増進する重要な事業であります。

##### 【目標】

- ①みえ治験医療ネットワーク推進会議  
治験医療ネットワークの円滑な運営や推進に必要な人材の育成・確保や治験実施体制の整備について検討、調整を行います。
- ②みえ治験医療ネットワークの構築  
県内外の関係機関との連携によるみえ治験ネットワークの活性化
- ③臨床研究コーディネータの育成・確保  
CRCの役割を担うことが可能な資質の向上
- ④病院・診療所、医療関係者及び県民への情報提供および普及啓発  
医療機関に従事する治験協力者の治験に関する理解の推進

##### 【結果】

県民への高度先端医療や良質な医療の提供をめざし、関係機関と連携して迅速で質の高い治験の実施を支援するため、みえ治験医療ネットワークシステムの構築や治験コーディネータの育成を進めるとともに、県民への普及啓発や治験協力者への情報提供を行いました。

##### ①みえ治験医療ネットワークの推進

ネットワークシステムの調査・研究を三重大学に委託し、みえ治験医療ネットワークシステムを推進してきました。

平成20年度

- ・ 臨床試験・治験の地域拠点「治験・医療クラスター」の構築に関する調査・研究
- ・ みえ治験医療ネットワーク推進会議（平成21年3月16日）

平成21年度

- ・ 地域基幹医療機関との連携による治験、臨床研究の推進・啓発に関する調査・研究
- ・ みえ治験医療ネットワーク推進会議（平成22年3月11日）

平成22年度

- ・ 地域圏及び他県との連携による治験、臨床研究の推進に関する調査・研究
- ・ みえ治験医療ネットワーク推進会議（平成23年3月18日）

##### ②治験コーディネータの育成・確保

治験ネットワークの円滑な運営を行うための治験コーディネータ（医師と協力して治験計画の管理、イ

ンフォームドコンセントを得るなど、治験全体を調整する役割を担う者：CRC)を育成しました。  
平成20年度

- ・ 治験講習会(平成21年1月29日) 参加者35名
- ・ 臨床試験講習会(平成21年3月13日) 参加者65名

平成21年度

- ・ CRC研修会(平成22年2月18日) 参加者29名
- ・ 治験講習会「治験及びCRCについて」(平成22年1月7日) 参加者61名

平成22年度

- ・ CRC研修会(平成23年2月24日) 参加者48名
- ・ 治験講習会「治験及びCRCについて」(平成23年1月6日) 参加者33名

### ③治験協力者・県民への情報提供及び普及啓発

平成20年度

- ・ 治験推進シンポジウム(平成20年12月12日) 於：三重大学 参加者120名
- ・ 三重大学附属病院(外来)での治験解説及びアンケートを実施(平成21年1月26日～30日)

平成21年度

- ・ 治験推進シンポジウム(平成22年1月28日) 於：三重大学 参加者92名
- ・ パンフレット等啓発資材の作成
- ・ 県内基幹病院での普及啓発活動及びアンケートを実施(年間8回)

平成22年度

- ・ 治験推進シンポジウム(平成22年11月8日) 於：三重大学 参加者50名
- ・ パンフレット等啓発資材の作成
- ・ 県内基幹病院での普及啓発活動及びアンケートを実施(年間6回)

### 【成果と課題】

- 三重大学医学部附属病院が2007年度より治験活性化5カ年計画(厚労省)の30の拠点医療機関に採択されています。治験・臨床研究を実施するモデル医療機関としてみえ治験医療ネットワークが評価された成果であると考えます。
- みえ治験医療ネットワークでは、125医療機関が加入し中央治験審査委員会の実施のための体制作りも推進しています。
- ▲治験はますます都市部に集中する傾向が強まると考えられ、今後、みえ治験医療ネットワークの実績をさらにあげていくことが必要となります。

### (6)「美し国・みえ」から生まれる予防医学を活用した産業の支援(事業開始 22年度)

※「美し国・みえ」から生まれる予防医学を活用した産業支援事業(開始年度 21年度)を緊急雇用対策事業(委託事業)としてリニューアル

#### 【目的】

今後進展が予想される予防医学を広く県民に持続的に啓発していくため、「美し国おこし・三重」と連携し、予防医学に関連する住民グループを発掘し、医療関係者も加わったネットワークを構築します。さらに、三重県型予防医学に関連したビジネスモデル化を行い、県内の医療・健康・福祉産業を活性化させるとともに県民の健康増進に寄与します。

#### 【事業の意義・重要性】

メディカルバレー推進事業の一環として産学官民連携のもと拡大する事業であり、さらに県の事業である「美し国おこし・三重」と連携することにより、県民の健康増進と県内の産業振興を推進する意義があります。

#### 【目標】

県民に広く予防医学について広報し、啓発するためのフォーラムを開催します。また、県内外の医療関係者等のネットワークを構築し、より予防医学の見識を深めるために関係者向け研修会を開催します。



## 【結 果】

美し国おこし・三重と連携し予防医学に関連する住民グループを発掘するとともに医療関係者も加わったネットワークを構築し三重県型予防医学に関連したビジネスモデル化を図り、医療・健康・福祉産業の活性化を目指すとともに、県民の健康増進を促進してきました。

平成 21 年度

- ・ 医食同源みえワーキンググループ（平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月 15 回）
- ・ 統合医療の世界的権威 Dr. Andrew Weil の招聘及び意見交換会の実施  
（平成 21 年 5 月 24 日～25 日） 於：多気町及び伊勢市
- ・ 医食同源フォーラム（平成 21 年 10 月 7 日） 於：多気町民会館
- ・ 統合医療フォーラム（平成 22 年 2 月 26～27 日） 於：三重県営サンアリーナ  
※メディカルバレーフォーラム 2011 と合同開催

平成 22 年度

- ・ 緊急雇用創出事業 雇用者 2 名
- ・ 医食同源みえ検討会議（平成 22 年 4 月～12 月 9 回）
- ・ 展示会出展による情報発信（平成 22 年 9 月 29 日～10 月 1 日 バイオジャパン 2010 出展）
- ・ 医食同源フォーラム（平成 22 年 11 月 14 日） 於：多気町民会館

## 【成果と課題】

○普及啓発については、関係者と協働して様々な企画が実現し、県内外に統合医療の考え方を広く PR できました。

▲PR のみに留まらず、今後いかに産業振興に結び付けていくかが課題です。専門家とのネットワークを持つ企業あるいは団体に本事業を委託しこの課題解決を図っています。

▲また、特に健康食品については、安全性とエビデンスに課題があるため、メディカルバレーでネットワークの出来た「健康食品管理士認定協会」等の関係機関と連携を進めていく必要があります。

## (7)メディカルバレーふるさと雇用の再生(事業開始 21 年度) ※3カ年事業

### 【目 的】

ふるさと雇用再生事業として、地域の健康増進に係る産業における、民間企業などの新たな事業展開の支援を行います。医療・健康・福祉産業における事業拡大、新規事業への取組に対し支援することで、県内関連産業の振興を図るとともに、新たな雇用創出を促進します。

### 【事業の意義・重要性】

ふるさと雇用再生事業として、地域の健康増進に係る産業における、民間企業などの新たな事業展開の支援を行います。医療・健康・福祉産業における事業拡大、新規事業への取組に対し支援することで、県内関連産業の振興を図るとともに、新たな雇用創出を促進します。

### 【目 標】

#### ①治験啓発・活性化事業

県民に広く理解と協力を図る啓発事業及び新規治験受託医療機関の発掘を実施することにより、さらなるみえ治験ネットワークの拡充を目指します。

#### ②健康ツーリズム企画開発事業

県内（特に伊勢志摩、東紀州）の新たな観光価値として、健康ツーリズムの啓発・支援・企画・主催・調査・集客などの業務を実施し、県民の健康増進、観光産業の振興を促進します。

#### ③三重伝統薬ブランド商品開発事業

三重県の伝統薬、薬草を利用した商品のブランド化を図るため、マーケティングリサーチや商品開発、販路開拓等を実施し、県民の健康増進を促進するとともに、伝統薬産業を振興します。

#### ④統合医療推進事業

メディカルバレー構想第 2 期実施計画の柱となる「統合医療」に関する医療関係者向けのワークショップの開催、統合医療研究会及び産業ネットワークのコーディネートを実施し統合医療推進の基盤を構築します。

#### ⑤医療機器等開発促進拠点化事業

医療現場等に潜在する様々な開発ニーズとそれらに対応した工学的な技術シーズとの一体となった研究開発を進めるため、研究開発拠点として開発ニーズの調査、医療機器等の研究開発、製品の実用化などを委託し、医工連携による研究開発を促進させます。

**【結果】(平成 21、22 年度共通)**

治験活性化、統合医療の推進、健康ツーリズム企画、三重伝統薬のブランド化開発及び医療機器等開発促進などの業務を委託し、医療・健康・福祉産業における事業拡大や新事業展開に支援することで、関連産業の振興を図り、新たな雇用を創出しています。

- ・ 治験啓発・活性化に係る事業委託（雇用：1名）
- ・ 統合医療推進に係る事業委託（雇用：2名）
- ・ 健康ツーリズム企画開発に係る事業委託（雇用：1名）
- ・ 三重伝統薬ブランド商品開発事業委託（雇用：1名）
- ・ 医療機器等開発促進拠点事業委託（雇用：1名）

**【成果と課題】**

**①治験啓発・活性化事業**

本来の目的である雇用創出が達成されました。事業としては、みえ治験ネットワークの課題であった新規医療機関の加入促進が実現しています。今後は、ネットワークに加入しているが、実際には治験実績のない病院への訪問や、CRO、製薬企業へのPR活動を実施し、治験の活性化を図っていく必要があります。

**②健康ツーリズム企画開発事業**

本来の目的である雇用創出は達成されました。事業としては、健康ツーリズム商品である、「ウェルネスの旅」やメディカルバレーフォーラムとタイアップした「脳と身体健康ツアー」の企画・催行、通年の商品開発ができています。今後も事業の一層の充実を図り、引き続き雇用の創出に努める必要があります。

**③三重伝統薬ブランド商品開発事業**

本来の目的である雇用創出は達成されました。事業としては、伊勢において古来から薬草を活用した萬金丹の復刻を手がけており薬事法上の許可を取得しました。今後も事業の一層の充実を図り、引き続き雇用の創出に努める必要があります。

**④統合医療推進事業**

本来の目的である雇用創出は達成されました。事業としては、県民だけでなく事業者、研究者、医療関係者を含めた幅広いネットワークが形成できました。一方では、委託業者の人員・能力に限界が見られることが課題です。そのため、業務内容を主に県民向けとしながら引き続き雇用の創出に努める必要があります。

**⑤医療機器等開発促進拠点化事業**

本来の目的である雇用創出は達成されました。事業としては、医工連携はすぐには成果のではありませんが、企業や大学、病院等と協働して検討会等を実施することで、ニーズに沿った研究開発を実施できるよう努める必要があります。

**基本方向 4 技術力向上・製品開発の支援**

**(8)福祉ビジネス販路開拓の支援(事業開始 22 年度)**

※福祉ビジネス販路開拓支援事業（事業開始 15 年度）及び福祉用具製品化支援事業（事業開始 14 年度）を統合

**【目的】**

プロジェクト開始から健康・福祉分野の製品・サービスの販路開拓支援を行ってきましたが、福祉分野のものづくり・サービス産業が伸びていないのが現状であり、福祉分野の産業振興を図るため、

福祉用具ものづくり研究会やみえテクノエイドセンターと連携して、製品開発から販路開拓までを支援する事業を展開します。

また、三重県身体障害者総合福祉センターに設置する「みえテクノエイドセンター」において、福祉用具の普及・啓発、自助具の製作を行う中から、使い手と作り手が参加する福祉用具や自助具に関するネットワークを構築し、ニーズ提供やモニタリングなど製品化支援を行って福祉産業の創出を図ります。

#### 【事業の意義・重要性】

健康・福祉分野での事業展開を進めるものの、販路開拓、販売促進方法などに悩む企業は多く、そのような企業に対して、専門家による即効性のある助言、支援を行うことにより、企業の成長を図ります。このように新事業展開・ベンチャー企業を支援することは、産業クラスターの形成に向けて大変重要性が高いです。

また、「みえテクノエイドセンター」において収集した福祉用具のニーズと、みえメディカル研究会の福祉用具ものづくり研究会の参加企業や研究者に提供するとともに、開発された福祉用具に対して評価・モニタリング支援を行うことで、産学官民が連携した福祉用具開発を実現することは重要です。

#### 【目 標】

##### ①みえメディカルバレー健康・福祉ビジネスサポート事業（KBS）

製品・サービス開発後の販路開拓支援及び企業の課題解決と各商品に合わせた販路開拓・売上増加

##### ②福祉用具製品化支援事業

福祉用具等に対するニーズを中間ユーザーやエンドユーザー等から収集すること。また、企業の製品開発に対し、評価・モニタリングを行って支援すること。

#### 【結 果】

##### ①みえメディカルバレー健康・福祉ビジネスサポート事業（KBS）

健康・福祉に関して新たな製品やサービスを展開しようとする事業者を対象に、この分野に関して幅広い知識、ネットワーク、そして実績のあるコーディネータやアドバイザーが、事業者の課題にあわせた販路開拓方法・販売促進方法について、効果的で即効性のある助言・支援を行っています。

（年間10事業者を支援）

##### ②福祉用具製品化支援事業

三重県身体障害者総合福祉センター内に設置した「みえテクノエイドセンター」を中心に、大学や研究所、企業などと協働して、高齢者や障害者にあった福祉用具や自助具の開発、住宅改修支援などを行う他、利用者のニーズ収集や共同開発を行ってきました。

#### 平成20年度

- ・ みえ福祉用具フォーラム2008（平成20年12月17日） 参加者211名
- ・ 福祉用具アイデアコンクール（募集期間：平成20年7月1日～10月24日 応募数187点）
- ・ 福祉用具セミナー（計5回 20時間）
- ・ 企業が製品化した福祉用具への助言・モニタリング
- ・ みえメディカル研究会へのニーズ提供及び製品開発助言

#### 平成21年度

- ・ みえ福祉用具フォーラム2009（平成21年12月10日） 参加者282名
- ・ 福祉用具アイデアコンクール（募集期間：平成21年7月1日～10月16日 応募数182点）
- ・ 福祉用具セミナー（計16回 16時間）
- ・ 企業が製品化した福祉用具への助言・モニタリング
- ・ みえメディカル研究会へのニーズ提供及び製品開発助言

#### 平成22年度

- ・ みえ福祉用具フォーラム2010（平成22年12月8日） 参加者213名
- ・ 福祉用具アイデアコンクール（募集期間：平成22年7月1日～10月1日 応募数221点）
- ・ 福祉用具セミナー（計16回 16時間）
- ・ 企業が製品化した福祉用具への助言・モニタリング
- ・ みえメディカル研究会へのニーズ提供及び製品開発助言

## 【成果と課題】

### ①みえメディカルバレー健康・福祉ビジネスサポート事業（KBS）

○事業者の販売能力を向上させるため、効果的な展示会への出展を支援しており効果をあげています。  
▲流通事業者のニーズ・マッチングによる製品開発支援について、ニーズ・シーズ調査から事業所探し等に長時間必要となり、年度内の委託事業のなかで成果につながる事が難しいため、今後は、製品・サービス開発後の販路開拓に絞って支援していきます。

### ②福祉用具製品化支援事業

○福祉用具等のニーズはテクノエイド相談やアイデアコンテストで収集・集積しつつあります。

▲しかし、すぐに製品化に繋がるものは少なく、また製作、試作段階においてのネットワークが未熟なため製品化が難しく、メディカル研究会と作業療法士会等との連携構築により、製品化へのネットワーク構築を推進していく必要があります。

▲モニタリングにおいても県内の医療・介護・福祉施設とのネットワークを構築し、モニタリングを希望する企業とのマッチングが行えるよう支援強化を図っていきます。

## (9) バイオ産業の創出(事業開始 15年度)

### 【目的】

本県には、薬用植物等植物資源、海洋生物資源、海洋深層水などの豊かな天然資源があり、天然資源を活用した製品開発について企業や関連機関からの関心も高いうえ、三重大学医学部や生物資源学部を始めとする研究機関のバイオ分野での研究の蓄積があります。従ってこれら天然資源を活用した事業を支援するとともに、バイオ分野における研究開発をさらに進め実用化につながるよう支援していきます。また、本県の天然資源を活用したバイオ産業を積極的に県内外に情報提供していきます。

### 【事業の意義・重要性】

本県には、薬用植物等植物資源、海洋生物資源、海洋深層水などの豊かな天然資源があり、すでに全県調査が終了しています。調査結果を活かした事業展開を行い地域の活性化を進めるとともに本県のポテンシャルを高め、バイオベンチャー等の起業化も促進されます。

### 【目標】

#### ①天然資源の活用支援

県・市町等が連携して天然資源を活用して地域産業を活性化します。また、県内の豊富な天然資源や大学等の研究ポテンシャルを活用した研究開発促進や大学発・企業発バイオベンチャー支援によりバイオ産業の創出をめざします。

#### ②バイオ関係情報発信事業（再掲）

バイオジャパン、国際バイオ EXPO など国際バイオイベントに出展することにより、メディカルバレープロジェクトを国内外に情報発信します。

#### ③メディカルバレー知的拠点の支援

大学のサテライトラボや薬系大学・バイオ系学部等の設置など医療・健康・福祉産業分野の知的拠点整備の取組を支援するとともに、県内企業や大学の知的ポテンシャルを向上させることで、産学官民連携体制の強化や研究開発機能の充実と集積を進め、新産業の創出や新事業への展開を促進します。

### 【結果】

#### ①天然資源の活用支援

平成 15 年度～19 年度まで実施された天然資源活用調査の成果を地域振興につなげるため、検討・調査を行ってきました。

平成 20 年度

- |  |
|--|
| ・ 天然資源活用地域連携会議（平成 20 年 6 月～10 月） 於：尾鷲市、伊勢市、津市、四日市市 |
| ・ 天然資源活用セミナー                                       |
| 平成 21 年 2 月 12 日 於：熊野市・熊野庁舎 参加者 50 名               |
| 平成 21 年 3 月 10 日 於：伊勢市・伊勢かぐらばリゾート千の杜 参加者 80 名      |



平成 21 年度

各市町及び商工会・商工会議所を対象にアンケートを実施

- ・ 29 市町 内回答数 17 市町
- ・ 43 商工会・商工会議所 内回答数 23 カ所

平成 22 年度

商工会・商工会議所へのアンケートをもとにヒアリング調査を実施

- ・ 6 月～9 月ヒアリング希望市町及び商工会・商工会議所等訪問  
(市町 9 カ所、商工会・商工会議所 16 カ所、その他 1 カ所)

地域資源を活用した食品等の開発による地域の活性化委託事業を実施

- ・ 地元天然資源を活用した医食同源料理の開発および導入支援 (委託先：三重県伊勢調理師協会)

②バイオ関係情報発信事業 (再掲)

バイオジャパン、国際バイオ EXPO など国際バイオイベントに出展することにより、メディカルバレープロジェクトを国内外に情報発信しました。

③メディカルバレー知的拠点の支援

鈴鹿医療科学大学・薬学部開設に伴い、鈴鹿地域のネットワークを充実するため、調整会議を開催しました。また、伊賀地域においては産学官連携伊賀研究拠点が開設されたことにともないセミナー等の支援をしました。

【成果と課題】

- 県内各地域に、有用な天然資源が存在し活用の可能性は充分あることが判っています。また、各地域の行政、各種団体、地元企業においても、資源の活用を模索している状況であることが判りました。
- 天然資源を活用した医療・健康・福祉分野への新たな産業振興に取り組んでいる、または今後取り組もうとしている地域とのつながりができました。事業者の販売能力を向上させるため、効果的な展示会への出展を支援しており効果をあげています。
- ▲県内資源を有効に利用した新たなバイオ産業の創出や、大学等の研究ポテンシャルを活用した研究開発促進のために、各地域間及び研究機関とのネットワークの構築をする必要があります。

(10) 医療・健康・福祉産業分野海外地域間交流の促進(事業開始 15 年度)

【目的】

三重県薬事工業会と協働し、産学官が連携して今後の発展が期待される中国との企業間、大学間による技術連携や共同研究、市場開拓などを進めるとともに、平成 15 年度からミッション団の相互派遣を行ってきたドイツ等のバイオ関連産業クラスターとの交流・連携を継続し、相互投資の促進等による県内企業の競争力強化、地域経済の活性化を図ります。

【事業の意義・重要性】

医療・健康・福祉産業の振興にあたって、共同研究の実施、技術連携、相互投資など国際的枠組みの中で企業、大学の連携・交流活動が促進され、企業の競争力の強化や大学の研究開発が図られます。

【目標】

海外との国際産業交流により、県内企業の競争力強化、地域経済の活性化を図ります。また、中国へのミッション派遣や招へい事業では、企業は市場開拓や業務提携を、大学・高専は共同研究の促進や人材交流を、県・市町は行政間の調整を行い連携・交流を促進させます。

【結果】

海外の医療・健康・福祉分野との産学官連携を促進し、企業間や大学間などの技術連携や企業誘致、投資などを活発化させるため、海外バイオ関連産業クラスターとの企業・大学間の連携・交流を、日本貿易振興機構(ジェトロ)等と協働して実施しました。また、産学官で組織するミッション団を中国(瀋陽地域)に派遣し、薬事関係分野における中国の企業・大学と三重県内の企業・大学との相互協力体制の構築を進め、企業間の業務提携や技術連携、また大学間の共同研究や人材交流など具体的な成果の実現を目指してきました。

平成 20 年度

- ・ 中国（瀋陽・天津地域）にミッション団を派遣（平成20年10月22日～29日） 参加者29名
- ・ 中国有力企業や有識者を招へい（平成21年2月16日～20日） 招へい者：有力企業2社、有識者海外研究者と県内産学官の研究者との交流を深めることを目的に北米での視察・面談の実施
- ・ カナダ・米国視察（平成20年6月13日～21日）  
Hollyhock（リトリート施設）視察／Dr. Andrew Weil 氏宅訪問・面談／BIO2008サンディエゴ視察／アリゾナ大学訪問・面談

平成21年度

- ・ 中国（瀋陽・本溪地域）医療・健康・福祉産業ミッション団を派遣（平成21年10月21日～25日） 参加者24名

平成22年度

- ・ 中国（瀋陽地域）医療・健康・福祉産業ミッション団を派遣（平成22年10月20日～24日） 参加者27名
- ・ 遼寧省食品薬品监督管理局来県（平成22年6月21日～6月26日 訪問者3名）  
目的：三重県での行政、大学、企業及び薬事工業会との交流を深める

### 【成果と課題】

- ミッション派遣は、三重大学と瀋陽薬科大学との大学間協力協定の締結につながりました。また、遼寧省遼寧省食品薬品监督管理局から県内企業、大学等との交流を深めるため、来県のための受入要請があるなど、今後の連携・交流につながっています。
- ▲これまでの取組から中国医薬品市場への進出については、制度的なハードルが非常に高く実現が厳しい状況にあることがわかりました。医薬品から健康食品や化粧品等へ対象品目の変更を検討する必要があります。また、伝統的中国医学（TCM）による治療技術のレベルは高く、TCMを中心とした技術交流、製品開発への可能性をさぐる検討もできると思われれます。

## (11) メディカルサポーターの活用・充実(事業開始 14年度)

### 【目的】

企業が確保できていない人材（薬事関連産業であれば、薬事に関する相談、GMP運用・バリデーション実施に精通し、薬事法等をサポート、アドバイスできる人材など）を、「メディカルバレー推進サポーター」として委嘱し、医療・健康・福祉関連企業に派遣して、サポート・アドバイス等を実施することにより、企業のレベルアップを図ります。

### 【事業の意義・重要性】

メディカルバレー推進サポーターは、企業が必要とする時期に、企業が必要とする人材を派遣できるフレキシブルな対応ができます。また、サポーター派遣の申込み窓口を医薬品研究センターとしており、企業と研究者の連携に、専門分野を持つサポーターから助言が受けられることでさらに効果があげられます。

### 【目標】

事業者がサポーターを積極的に利用することにより、その事業者の技術的なレベルを向上させます。

### 【結果】

医療・健康・福祉産業分野の経験豊かな人材をメディカルバレー推進サポーターとして、16名（薬事分野12名、健康・福祉分野4名）を委嘱しました。医薬品研究センターで相談を受けた企業に対し、サポーターを派遣し、サポート・アドバイスを行いました。

サポーター活動回数 平成20年度 67回・平成21年度 39回・平成22年度 44回

### 【成果と課題】

- メディカルバレー推進サポーターを活用することにより、県内薬事関係事業者の薬事関係法令にかかる支援、技術的支援を受けレベルアップが図れています。
- ▲メディカルバレー推進サポーターの認知度が低く、活用される事業者数が増えないため、ホームページへの掲載、チラシの配布等PRの手法を検討する必要があります。

## (12) メディカルバレー共同研究の支援(事業開始 14年度)

### 【目的】

医療・健康・福祉分野の産業振興を進めるため、産学官連携による企業を対象とした共同研究補助や大学等の研究者を対象とした委託研究を促進します。

### 【事業の意義・重要性】

企業を対象とした補助事業や大学等の研究者を対象とした委託事業により、産学官連携による共同研究やコンソーシアムの形成を促すことにより、医療・健康・福祉分野における産業クラスターの形成を熟成し競争力ある産業構造の形成、新事業やベンチャー企業を創出します。

### 【目標】

補助事業や委託事業により、産学官連携による共同研究やコンソーシアムの形成を促します。また、競争力ある産業構造の形成、新事業やベンチャー企業を創出します。

### 【結果】

医療・健康・福祉分野の産学官による共同研究や研究開発を促進するため、企業を対象とした共同研究補助や大学等の研究者を対象とした委託研究を行いました。

#### 〈補助事業〉

- ・対象者 三重県内に本社、研究施設、工場又は事業活動の拠点を有する事業者
- ・補助内容

#### ①メディカルバレー創造的人材育成事業

事業者が大学院のカリキュラムの中で高度専門人材の育成と研究開発・技術開発を目的に行う共同研究を実施する補助

- ・平成20年度 3件・平成21年度 2件・平成22年度 2件

#### ②メディカルバレー知的拠点活性化補助事業

事業者が、企業、大学等(大学、短大、高専)又は公設試験研究機関などとコンソーシアムを組織し、国等競争的研究資金獲得に向けて検討会や予備調査研究などを行う研究事業の補助

- ・平成20年度 3件・平成21年度 1件・平成22年度 1件

#### ③バイオベンチャー産学官共同研究補助事業

バイオベンチャー事業者が大学等又は公設試験研究機関と研究開発・技術開発を目的に行う共同研究を実施する補助

- ・平成20年度 3件・平成21年度 4件・平成22年度 1件

#### ④健康・福祉ものづくり研究開発補助事業

事業者が、大学等又は公設試験研究機関と医療・健康・福祉分野のものづくりを目的に共同研究を実施する補助

- ・平成20年度 2件・平成21年度 4件・平成22年度 3件

#### 〈委託事業〉

- ・対象者 県内大学、高等専門学校、独立行政法人試験研究機関の研究者
- ・委託内容

#### ①バイオ関係共同研究開発委託事業

県内大学、高等専門学校、独立行政法人試験研究機関の研究者と事業者が実施する基礎研究、応用研究でバイオ産業の創出進行に繋がる研究テーマにかかる共同研究の委託

- ・平成20年度 3件・平成21年度 5件・平成22年度 1件

#### ②医工連携型医療機器等研究開発委託事業

県内大学、高等専門学校、独立行政法人試験研究機関の研究者と事業者が実施する医工連携型基礎研究、応用研究で医療機器等の分野における産業の創出、進行に繋がる研究テーマにかかる共同研究の委託

- ・平成20年度 2件・平成21年度 0件・平成22年度 2件

### 【成果と課題】

- 共同研究補助委託により、商品化・特許取得等の成果がでています。また、国等の競争的資金確保への足がかりや、企業・研究者への共同研究が拡大するなど利用者へ貢献しています。
- 事業終了後の共同研究開発の成果等について追跡調査を実施し、成果の確認ができています。

▲委託・補助事業への応募が三重大学に偏っているのは研究者の絶対数や共同研究の数値からも偏在が現れることは否めませんが、一方、募集時期や周知方法についても課題があります。

## 基本方向5 メディカルバレー推進体制の整備

### (13) メディカルバレー推進体制の整備(事業開始 14年度)

#### 【目的】

事業の進捗管理と具体的方策の企画、施策実施の成果評価、補助事業審査等を実施する機関を設置することにより、メディカルバレー推進事業の効果的な推進を図ります。また、事業の方向性、具体的方策の妥当性を的確に評価し効果的な事業の推進を図るため、外部審査員による外部評価システム導入を検討します。

#### 【事業の意義・重要性】

メディカルバレー推進産学官民組織を設置し、事業全体の進捗管理や評価、事業企画、提案などを行うことで、事業の質を高めます。また、事業の質の保持及び向上への効果を図るため、事業の目的、方向性及び進捗状況について、外部専門家による評価システムを試行することにより有効性を確認します。

#### 【目標】

会議等での適切な事業の進捗管理、事業評価により、メディカルバレー推進事業の効果的な推進を図ります。また、メディカルバレー推進事業の妥当性の評価及び質の向上を図るため、外部審査員による事業の審査を受ける外部評価システムの導入を試行します。

#### 【結果】(平成20～22年度 外部評価システムを除いて共通)

県内産学官民組織を代表する役職員で構成する「みえメディカルバレー推進代表者会議」、産学官民関係者による事業推進組織である「みえメディカルバレー企画推進会議」等を開催しました。

- ・メディカルバレー推進代表者会議の開催(年1～2回)
- ・メディカルバレー企画推進会議の開催(年2～3回)
- ・メディカルバレー事業評価部会の開催(年2回 事前評価・事後評価)
- ・外部評価システムによる審査会の試行(平成22年度 平成23年2月3日)

#### 【成果と課題】

- メディカルバレー推進事業の効果的な推進を目的とし、活発な意見交換の実施、それぞれの情報交換・情報共有の場及びネットワークの構築が可能となりました。
- ▲定期的なメディカルバレー推進代表者会議委員、企画推進会議委員の見直しを行う必要があります。また、メディカルバレー構想第3期実施計画の実現に向けた事業展開について継続した検討が必要です。

### (14) メディカルバレー成果評価アンケート調査(緊急雇用創出事業)

(事業開始 21年度) ※3カ年事業

#### 【目的】

平成19年度でメディカルバレー構想の第1期が終了し、今までの事業成果に対する評価及び問題点等をアンケート調査により検証し、今後の事業展開に反映させます。

#### 【事業の意義・重要性】

医療・健康・福祉分野の産業振興を進め、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上をめざし、平成14年度にメディカルバレー構想を策定しましたが、平成19年度で本構想の第1期が終了したことから、今までの事業成果についてアンケート調査を実施し、事業評価や問題点等について検証す



ることで、今後の事業展開に反映させるとともに、健康長寿を支える産業の育成を推進します。

**【目標】**

アンケートを実施し、事業、評価、課題、成果の検証を行い、今後の事業展開に反映させます。

**【結果】**

いままでの事業成果に対する評価等をアンケート調査により検証し、今後の事業展開に反映させるとともに、新たな雇用を創出しました。

平成21年度

・アンケート調査実施（実施期間：平成21年6月1日～11月30日 雇用：1名）
---

平成22年度

・アンケート調査実施（実施期間：平成22年7月～平成23年1月 雇用：1名）
--

**【成果と課題】**

- 国の基金に基づき、本来の目的である雇用対策として半年間1名の業務補助員を雇用しました。
- アンケート結果によりメディカルバレー事業のなかでも認知度の低い事業があるなど強み弱みを検証することができました。
- ▲アンケートの回収率及び回答内容等を精査し、調査対象者の集中と拡大を検討し、特にメディカルバレーに関係する企業と調査項目を絞り込むことによりメディカルバレーの成果指標を今後活かすようにする必要があります。

IV 第2期実施計画成果指標および成果と課題

第2期実施計画でめざす姿

産学官民が連携しながら、それぞれが自立的な取組を展開するパートナーシップを維持し、そこから次々にイノベーションが生み出され、医療・健康・福祉産業が活性化しています。

これを実現するため新たに次の5つの基本方向を基に事業を展開していきます。

基本方向1

産学官民連携によるネットワークの充実・拡大

基本方向2

メディカル分野の人材の確保・育成

基本方向3

統合医療・予防医学を推進するための体制づくり

基本方向4

技術力向上・製品開発の支援

基本方向5

推進体制の充実

◎ 成果指標

◆新しいネットワークの構築(2件)

◆ネットワークを支える人材の育成(3人/年)  
※バイオ・メディカル創業プログラム修了者

◆みえ治験医療ネットワークを活用したビジネスモデルの構築(1件)

◆地域資源を活用した製品開発(2件)  
◆産学官共同研究件数の増加

◆外部評価システムの導入

◎ 成果指標の達成状況

◆NWの構築(2件)  
伊賀地域  
鈴鹿地域

◆バイオ・メディカル創業プログラム修了者(3人/年)  
20年度4名修了  
21年度4名修了  
22年度13名(地域イノベーション学研究所修士課程修了予定者)

◆みえ治験医療NWを活用したビジネスモデル(1件)  
機能食品研究所(三重大学発ベンチャー)

◆地域資源を活用した製品開発(2件)  
・黒にんにやく・ラムナノハイジャン  
◆産学官共同研究数の増加  
20年度247件  
21年度258件  
22年度264件

◆外部評価システムの導入  
22年度中に導入

成果と課題の顕在化

【課題】

- ◆ 各事業間の有機的な連携
- ◆ メディカルバレーを効果的に推進する人材の確保・育成
- ◆ 新たな参画を促すしくみ(プレイヤーの拡大)
- ◆ 医療・健康・福祉分野の継続的な商品開発等を生み出すしくみ

#### IV 第3期実施計画に向けて（平成23年度～＝成長期）

第1期・第2期実施計画で培われた基盤を活用して、医療・健康・福祉の視点で成果（製品）を生み出すためのプロジェクトを展開予定

メディカルバレー構想の基本理念

地域資源を有効に活用し、競争力のある医療・健康・福祉産業の振興に取り組み、活力ある地域づくりと県民の健康と福祉の向上を目指します。

